

百草

ひゃく にち そう

No.20

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
TEL03-5747-2610 FAX03-5747-2620
e-mail・hasesanz@yg7.so-net.ne.jp
URL・http://www007.upp.so-net.ne.jp/hasesanz/



たゆたえども沈まず

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
理事長 坂口郁子

3.11の東日本大震災から3か月がたちました。災害の犠牲になられた方に謹んでお悔やみ申し上げます。まだ現場ではあらゆることが改善されていないこと、福島原子力発電所の目を追うごとに危機的な状況を知るにつけ、建設的なありようが見えない憂うべき状況は、戦争で兄や家を失ったときに次いで、私にとって第2の敗戦です。テレビで放射能を測定してほしいと訴える石巻の漁業者の絶望的なまなざしに、原発は日常感覚ではつかむことができない、あの敗戦のきっかけになった原子爆弾に対する感覚としてよみがえってきました。原発による電力の享受には改めて「NO! 原発」です。

さて、長年取り組んできた成果として認定NPO法人制度の画期的な見直しがあり、はせさんずも認定NPO法人になる可能性が生まれました。この制度は、NPOへの寄付を促すことで活動を支援するものです。メリットは、①個人の寄付は寄付控除の対象、②法人の寄付には別枠の損金算入限度額あり、③寄付は相続税の課税対象外、④みなし寄付制度が見込まれる、⑤社会的信用が高まるなどです。公に資するNPOの活動がようやく認められてきました。「2011.1.27 新しい公共をつくる市民キャビネット設立1周年」に国会議員各会派がともに会して見直しに賛意を表明。6月に国会を通過しました。これまで全国43,000のNPO法人のうち200団体のみが該当と資格要件は非常に厳しかったのですが、「3,000円以上の寄付者が年に100人以上」との要件が追加され、現行要件との選択制となります。

次に、来年度の介護保険・医療保険改正にあたり、在宅24時間365日サービス導入に向けての提案が、公益財団法人さわやか福祉財団からありました。宮城県がモデル地区となる「地域包括ケアの町」。医療と介護の共同で施設介護を在宅に置き換えたものといわれます。訪問時間を短く、定時訪問と緊急時対応をするが料金は定額制。施設入所待ちが一気に解消するような勢いです。ただし、軽度の人や認知症の人に適用できるのかが気がかりです。

人は自立して、人の手を借りながら、自分らしく生きていきたいと願っています。はせさんず本来の仕事である助け合いを、地域の力を、地域にネットワークを広げて民間の手で高めていきたいものです。災害を機に環境をどのように考えていくのか、これから育つ人たちに何を残せるのか。「たゆたえども沈まず」、我々が日本丸は浮沈の瀬戸際ではあるけれども、やがてもとの航路に間違いなく戻ります。そして次世代へ手渡したいと思うのです。

第13回通常総会開催

議案のすべてを承認

第13回通常総会が、5月29日(日)13時30分より、大田区池上会館白梅の間で開催されました。



社員総数27名のうち出席19名、委任状提出8名によって総会は成立し、下記5議案が承認されました。

- 第1号議案 2010年度事業報告
- 第2号議案 2010年度決算報告
- 第3号議案 2011年度事業計画(案)
- 第4号議案 2011年度予算(案)
- 第5号議案 役員改選(案)

元気かいは心身の介護予防になるような活動をしていきます。外部団体との交流・連携を図り、積極的に会議に参加します。

【介護保険訪問介護事業】

サービス提供責任者はヘルパーに的確な指示が出せるように、ヘルパーはさらに質の高いサービスにつながるよう研修をしていきます。利用者のサービス内容に差が生じないように情報を共有し、ケアカンファレンスを実施していきます。訪問介護事業者連絡会に参加し、他事業所との情報交換をします。

●2011(平成23)年度事業計画

【会員制活動事業】

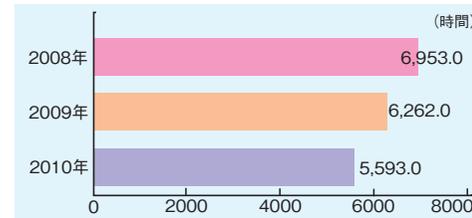
認定NPO法人化をめざし、寄付を受けやすくします。会員制たすけあい活動の内容を検討し、必要があれば新たな活動項目を加えていきます。会員交流会は会員が多数参集するような工夫をこらしていきます。

2011(平成23)年度月別活動予定

4月 『はせさんずニュース』No.54発行	災避難訓練、市民後見人養成講座
5月 第13回通常総会・講演会・会員交流会	11月 知的障害者ヘルパー研修会、フリーマーケット参加、市民後見人養成講座
6月 ヘルパー研修会、新入職員防災避難訓練	12月 年末懇親会、市民後見人養成講座
7月 『百日草』No.20発行、移送活動者安全研修会、市民後見人養成フォローアップ講座	1月 『はせさんずニュース』No.57発行、市民後見人養成講座
8月 『はせさんずニュース』No.55発行	2月 移送活動者情報交換会、市民後見人養成講座
9月 健康検診(検便)、ヘルパー研修会、市民後見人養成フォローアップ講座	3月 会員制活動者・ヘルパー研修会、市民後見人養成フォローアップ講座
10月 『はせさんずニュース』No.56発行、防	

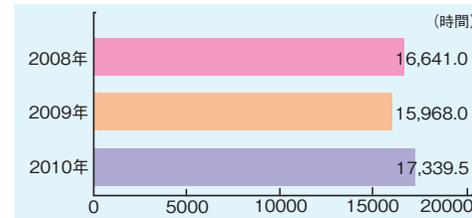
■2010(平成22)年度事業報告資料(3年間の部門別活動状況)

【会員制活動事業】



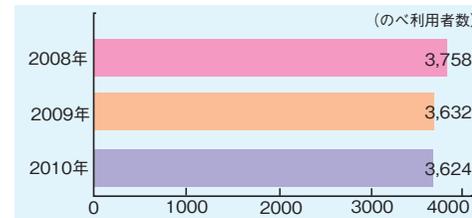
福祉有償運送に大田区福祉タクシー券が利用できるようになったが、それほど需要がなく、活動時間、活動件数とも前年度を下回った。

【介護保険訪問介護事業】



サービス実績は前年度比108.6%と増加。従来はヘルパー不足で対応できないところもあったが、常勤ヘルパーを増やし安定したサービスを提供できた。

【介護保険通所介護事業】



常勤看護師を採用して機能訓練を改善したが、一方で職員の交代などで利用者の受け入れが十分できない時期があり、前年度をやや下回った。

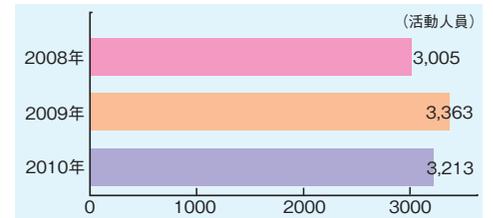
【介護保険居宅介護支援事業】

来年の介護保険改正を念頭に、地域連携や24時間対応の事例研修に参加します。大田区介護支援事業者連絡会を通し、他団体と連携しながら、行政への意見提出等も行います。世田谷区の認定調査は引き続き年間100件程度受けます。

【介護保険通所介護事業】

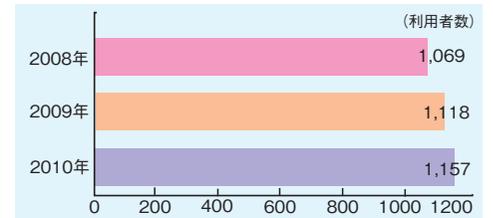
機能訓練の内容を充実させ、新規に屋内

【元気かい】



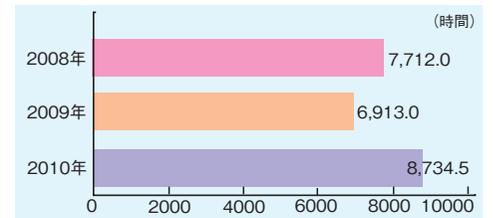
パソコン教室は会場の都合により11月末で終了したが、英語サークルを5月から始めた。東日本大震災のため、健康マージャンなど3月の活動を一部自粛した。

【介護保険居宅介護支援事業】



目標にそった活動を実施。予防に移行する利用者を引き続き支援する場合などに限定して、保留だった予防居宅介護支援を開始し、サービス向上につなげた。

【障害福祉サービス事業】



サービス実績は前年度比126.3%と増加。特に知的障害者(児)支援で男性ヘルパーが増え、男性利用者に対する長時間の外出介護ができるようになった。

アクティビティを随時試みて、雨天時や外出をしない利用者の意欲を引き出します。他事業所の利用状況などを調査し、利用者の安定した獲得を図るとともに、利用者・家族に喜ばれるデイサービスをめざします。

【障害福祉サービス事業】

知的障害者に対応できるヘルパーを増やしていくため障害者対応のヘルパー研修会を実施します。大田区自立支援協議会に委

はせさんずい、ご寄付をありがとうございました

2010(平成22)年度寄付者

上田隆正	白田豊子	馬道カ子	漆原富貴子	大澤恵美子	門野定雄	川嶋和子
幸田 眞	小林恵子	篠原銃一郎	清水はりえ	高島久忠	中牟田幸子	二宮文雄
野崎節子	藤田良一	三村 勲	村石美佐子	矢嶋早苗	よしかわたすけあい	

以上20名(敬称略五十音順)、総額1,041万7,500円でした。皆様からのご芳志は、はせさんずい運営費として有効に使わせていただきました。なお、フリーマーケット売上金は50万4,000円でした。多くの方のご支援、まことにありがとうございました。

員として参加し、役目を果たします。障害者家族支援のイベント等に参加し、地域の障害者理解を高めます。

[その他の事業]

市民後見人養成講座を実施します。前年度の修了生にはフォローアップ講座を実施します。ヘルパー養成や学習会の講師派遣、実習生の受け入れなども継続します。

●決算・予算について

2010(平成22)年度の会員制活動、訪問介護、居宅介護支援、通所介護等を合わせたNPO法人全体の総収入額は1億4,709万円(前年度比118.4%)。会員制活動への寄付金も多く、介護保険事業や障害福祉サービス事業でも収支が改善した結果、当期収支差額は1,311万円の黒字となりました。

2011(平成23)年度の活動目標は以下のとおり。障害福祉サービスは前年度比125%ですが、他の活動は前年度とほぼ同じです。

会員制活動：活動時間6,000時間
 訪問介護：活動時間16,800時間
 居宅介護支援：ケアプラン1,200件
 通所介護：利用者数3,660人
 障害福祉サービス：活動時間8,400時間
 これに基づいて予算を作成し、前年度より500万円ほど多くなっています。

●役員改選について

今年度は役員改選の年度であり、理事長をはじめとする理事10名、監事2名が承認されました。

2011(平成23)年度役員

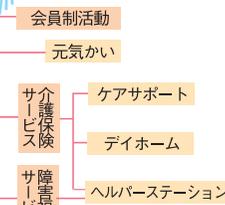
理事	坂口郁子	矢嶋早苗	根本信彦
	大澤恵美子	中谷三郎	乙部裕美
	佐藤京子	棧敷洋子	牧野晴美
	佐藤 悟		
監事	小林恵子	三村 勲	



通常総会に引き続き、15周年記念講演会・交流会が開催されました。講演会の記録を6ページ、交流会に参加した人の声などを8ページに掲載しています。

mini News

各部門今年度はここが重点!



会員制活動 活動内容見直しの時期

今は移送が中心のようになっていますが、日常生活で利用者が困っていて、必要度の高いことをもう一度拾い出し対応していきたい。依頼時点からじっくり相談にのり信頼関係を築いていきたいと思っています。会員交流会の充実にも取り組みます。(矢嶋早苗)

ヘルパーステーション 「ホウ・レン・ソウ」をきめ細かく

利用者一人ひとりに合った支援をするには、居宅サービス計画を理解した適切な訪問介護計画をつくり、支援の目的にそってサービス提供できるように調整する必要があります。今年は「ホウ・レン・ソウ」をさらにきめ細かく行い、ヘルパーとのカンファレンスを増やして、サービスの充実につなげたいと思います。(棧敷洋子)



デイホーム 自分らしさを発揮できるデイに

昨年度の目標「心が安らぐデイサービス」から一歩進めて、利用者が自分の力を、あるいは持ち味を発揮して、積極的な気持ちになれるようなデイホームをめざします。安心していられる場があると、人は心身のはたらきが活発になり、そのことが機能の改善につながると思います。(田中正英)



ケアサポート 地域との絆を結んでいくために

3月11日の震災以降、「絆」という言葉を目にし、耳にすることが多くなりました。介護保険の現場でも、今、地域との絆——ネットワークが重要なキーワードとなっています。ケアサポートは、今年、地域との絆を結んでいくための、足がかりとなる一歩を踏み出したいと考えています。(牧野晴美)



元気かい 着実に介護予防に向けて

2010年度の参加者は前年度と同様3,213人でした。パソコン教室を終了し、たのしい英語サークル(毎週月曜日)を立ち上げ順調に推移しています。今年は若手のボランティアスタッフを増やしたいと願っていますが、応募者を増やす方法に苦慮中です。皆さんが生き生きと元気に楽しめる会をさらに充実したいと考えています。(中谷三郎)



■はせさんず15周年特別企画 第2弾 Part I 講演会の記録

自治体とNPOの協働 ——地域とつながってこそ——

講師：國生美南子さん NPO法人たすけあいふきのとう副代表・ちばNPO協議会代表ほか
2011年5月29日(日) 大田区池上会館 1階展示ホールにて



講演に先立ち坂口理事長から、市民活動が進まない大田区で何ができるか先駆的な活動に学びたいと挨拶。地域で課題を共有することからスタートして「みんなで地域づくりセンター」ができるまでの4つの柱を通じて、地域とつながってこそ進めることができたという講演から、今後の地域のインフォーマルサービスの方向がうかがえます。質疑応答では、さまざまな分野のインフォーマル活動の可能性について、参加者から活発な意見が出されました。

4つの柱で地域とつながる

地域とつながるための4つの柱は、1.地域の課題の共有、2.千葉県NPO活動推進懇談会(2001年)⇒推進委員会(2003年)―行政によらずにNPO活動推進指針をつかった、3.千葉県、四街道市、NPOの協働事業―ともに築く地域社会事業⇒のちに地域活性化プラットホーム事業―四街道市最重要課題「こどもが生き生き育つ環境づくり」で申請、4.ともに築く未来の会発足(2005年)―30団体の交流⇒市民活動センターとして「みんなで地域づくりセンター」ができる。

介護保険事業のモデル都市としてスタート

最初は、市民は困っていることがあっても我慢する、あるいはあきらめているという主張する空気がなく、無関心に感じられました。まず、課題検討から始めると、行政にも何か一緒にやるのは案外おもしろいかもしれないと考える人も出て、これを公開討論会にもっていきました。「みんな一緒に地域で暮らしたい」など行政職員、医師、看護師、議員なども入り、地域に何があれば暮らせるだろうか、と話し合いました。

次年度は「死ぬということ」のテーマで、「人として生き、そして死ぬ」にはどういった支えが必要なんだろうという話題になりました。

このときヒーリングアートエプロンの話も出

て、以来、美しい絵のエプロンをふきのとうのスタッフがそれぞれの現場でつけて、利用者さんに喜ばれています。

介護保険が始まる時は、市民や特にお年寄りのいる家庭では、この先どうなるんだろうとの不安が広がっていたので、認定申請から実際に利用するところまでを寸劇に仕立てて上演しました。このような活動をしていると、行政職員ともよい関係をつくることができ、行政も医療関係者をがっちりつかまえてくれ、地域連絡会ができ、介護保険事業のモデル都市としてスタートできました。

「ともに築く地域社会事業」を県・市と協働で

堂本知事の時NPO活動を推進するための懇談会がつくられますが、その懇談会でNPO活動推進計画をつくる際に、地域では行政主導型の機関との連携がとてとりにくいので、「ともに築く地域社会事業」をアクションプランの中に入れました。これをやったおかげで地域とのつながりはうんと強くなりました。

四街道市の5つの課題の中の最重点課題「こどもが生き生き育つ環境づくり」を取り上げるよう申請する職員にお願いし、採択され、市、県、NPOの三者の協働でこの事業を行うことになりました。13のNPOが手を上げ11が採択されている関係をつくることができました。

ジャンルをこえたつながりができた

たとえば、田んぼが減って輸入めだかばかりになった現状をなんとかしようと、在来のめだかの里親制度をやり、子どもたちが学校や家に持ち帰り育ててめだかが増えました。増えたらトラックで盗みにきた人がいて、めだか池に木道をつかった大人たちがその後見回りしてくれるようになりました。地産地消の会も活動が続いており、団地の公園で朝市をしたり、自然に生まれたサポーターたちが野菜やお米を高齢者や障害者の家へ届けたりしています。

この事業でできた子どもの居場所も木曜以外毎日開いています。子どもたちは畳が平らでないところで積み木を高く積む工夫をして遊ぶようになった。長縄跳びを回すのはとても力があるが、千葉大の学生がサポートに入ってくれました。そのときの学生たちは今はきっといい先生になっていると思います。

このようにジャンルをこえてNPO同士のつながりができたことが、地域をつくっていくという意味でありがたいことになっています。

「みんなで地域づくりセンター」をつくらう!

町会・自治会を含めてみんなで地域づくりをしようという意味で名づけられた地域づくりセンターとともに地域づくり推進委員会ができました。地域づくりの底辺にあるのは自治会、この自治会が何もしないと組織率が低下し、孤立する人が出ているという実態が各自治会から報告され、そのような課題を解決していくための自治会懇談会がスタートしました。

大地震などの災害時には住民一人ひとりをフォローできるような仕組みを基本の自治会からつくっていかなくてはならない。居場所づくりを自治会でやろうという動きも出てきています。

小規模デイを通じて地域啓発活動

自治会との協働はむずかしい。協力的な人がいても、だれかがNPOに批判的な発言をすると、会長など役員がへなへなとなってしまいます。

通所を看取りまで可能な地域の居場所にしたと思うものの、ある時点になると家族が在宅

はせさんず15周年特別企画 第2弾 Part I 講演会の記録



で看ることをあきらめてしまいます。「最期まで本人が希望するところで暮らす」の啓発のため、通所で「ばおの寺子屋」を始めました。

繰り返し現場を見てもらって、認知症を困った病気ととらえる見方をなくしたい、老いや病気を自分のものとして受け入れ、できたら希望するところで命を全うしたい・してほしいと思うようになってもらいたい……。寺子屋は次回から「介護する側のこころ」が主題です。つらい介護をしている人たちのサポートのため2回、3回とシリーズで取り組みたいと思います。

県知事も替わり県庁の中も変わって、活動しづらいこともあります。現場ではお年寄りが障がいのある子どもに癒されています。共生型というか、障がい者も高齢者も子どもも一緒にいるという環境をつくっていききたいと思います。

開かれた居場所づくりへ

新しい公共事業とか地域支え合いの仕組みづくりということで、インフォーマルな助け合い活動によくお金を出してくれるところにきました。これを利用しない手はないと思っています。インフォーマルなサービスがどんなに大事かということを市民にわかってもらう取り組みをやっていききたい。

いちばんいいのは居場所、寄り合い所とかデイサービスとか「場」があることです。制度上のサービスだけでなく、地域にどんどん開いていただきたい。地域の人が寄って1～2時間お茶を飲んで帰っていかれたり、子どもが遊んでいったりするような開かれた居場所づくりに、この制度を利用していききたいと思っています。

■はせさんず15周年特別企画 第2弾 Part II 交流会

はせさんずの15年、そして20周年に向けて



▼はせさんずのこれまでのあゆみ

1992(平成4)年

「大田区の高齢化社会を考える会」発足



大田区社会教育女性セミナー「老いを豊かに」受講メンバー有志による

1996(平成6)年2月

「高齢社会を考える会たすけあい大田はせさんず」発会式



1998(平成10)年4月

移送サービス(現福祉有償運送)開始



1998(平成10)年12月

NPO 大田在宅援助グループ協議会(現大田 NPO 活動団体交流会) 加入

▼交流会の祝辞・インタビューから

はせさんず発展の要素の第一は、社会教育で勉強した方々が、会を始める前に熱心な学習と話し合いをしたことだと思います。



賛助会員(元国立市教育長) 徳永功さん

1993(平成5)年

医療マップ『私のすいせんするお医者さん』発行



お医者さんの冊子をつくってマスコミに取り上げられた頃から、活動に賛同して協力しています。



内科医師・はせさんず顧問鈴木悦朗さん

活動は充実した生活の中の大事な一部。「ありがとう」のことがうれしくて、これからもずっと続けていきたいです。



会員 宮田幸乃さん

1997(平成9)年10月

在宅福祉サービス支援システム「さわやかさんⅡ」運用開始



(財さわやか福祉財団提供による)

はせさんずは財団が進める「新しい公共」と「公共の担い手」の東京大田区における先駆的な活動のモデルになっています。



公益財団法人さわやか福祉財団理事 和久井良一さん

運転ができるかぎり続けたいです。利用者の話でタクシーよりこちらを求めているとわかります。



会員 金子文一さん

給食サービスをして同じく15年、NPO交流会にも当初から参加。池上地区まちおこしでも一緒!



NPO法人サポートばんぶきん理事 宮嶋利明さん

NPO交流会には当初から。これからははせさんずと連携しながら、地域密着のNPOとして活動を続けていきたい。



NPO法人福祉コミュニティ大田代表 浜洋子さん

はせさんず15周年特別企画 第2弾 Part II 交流会

2000(平成12)年2月

介護保険指定訪問介護事業所「はせさんずヘルパーステーション」稼働開始



活動11年。おかげで親の介護で人に助けてもらう段取りがスムーズでした。今後もマイペースで!



会員 塩田和子さん

2001(平成13)年9月

介護予防事業「はせさんず元気かい」設立、活動開始



発展していく力がまだまだあります。弱者の味方であり続け素敵なはせさんずであってほしい。



会員(元理事) 高島久忠さん

2002(平成14)年4月

介護保険指定居宅介護支援事業所「はせさんずケアサポート」稼働開始



2002(平成14)年7月

NPO 法人市民福祉団体全国協議会に参加(常務理事に就任)

この震災で、NPOはどこまで何ができるか試されている。はせさんずのような優れた団体が先頭に立ち連携を深めて!



NPO法人市民福祉団体全国協議会専務理事 田中尚輝さん

2003(平成15)年

知的・身体障害者居宅介護事業、児童居宅介護事業の指定を受ける



岩手を訪れ本音で助けを求める難しさを感じた。利害関係なく連携できる強みを生かし、上手につるんでいきましょう!



NPO法人男女共同参画おた副理事長 青木千恵さん

2004(平成16)年4月

大田区池上4-28-3に移転

2004(平成16)年8月

介護保険指定通所介護事業所「はせさんずデイホーム」開設



はせさんずは日本一。今後も地域のためになっていくには、利用者の声をとことん聞いて、ニーズにそったサービスに徹することが大事ですね。



会員(監事) 三村 勲さん

2008(平成20)年10月

「介護保険を継続・発展させる1000万人の輪」運営委員



はせさんずの理念をきちんと生かしたサービス、デイホームとして発展して欲しい。



会員(元理事) 柘植輝生さん

2010(平成22)年10月

フォーラム「幸福づくり考 in おた」開催

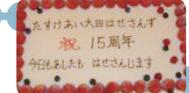


フォーラムでは助け合い活動のNPO、町会・自治会、地元自治体の交流が実現し成果があったと思います。今後も地域で活躍されることを願います。



大田区副区長 野田 隆さん

15周年のケーキ



総会、15周年記念講演会・交流会にのべ183名が参加。行政、活動団体、はせさんず会員・職員が集まり、地域の絆を深めた。

to 20th anniversary

私たちのあゆみ

2010(平成22)年4月～2011(平成23)年3月

- 10. 4. 5(月) 大田区通所介護事業者運営委員会 以後13回 田中
- 7(水) さわやか福祉財団 全12回 坂口
- 9(金) 『はせさんずニュース』No.50発行 以後9.1No.51、11.17No.52、1.21No.53発行
- 12(月) 東京都社会福祉協議会福祉部会 以後全6回 矢嶋
- 池上地区まちおこしの会環境部会 以後全6回、総会 佐藤
- 14(水) 大田区NPO活動団体交流会 以後全15回 矢嶋
- 15(木) 大田区介護支援専門員連絡会 以後全12回 牧野
- 21(水) 大田区訪問介護事業者連絡会 以後全13回 棧敷
- 23(金) 市民福祉団体全国協議会常務理事会 全6回 坂口
- 24(土)・25(日) 福祉有償運送認定講習 以後全3回 参加者3名
- 26(月) 理事会 以後全9回開催
- 30(金) 池上祭実行委員会 以後全3回 佐藤
- 5. 10(月) さわやか福祉財団研修生受け入れ 全4名
- ～13(木) 各県から派遣された自治体関係者が大田区のNPOを訪れました。
- 12(水) 「介護保険を持続発展させる1000万人の輪」 全2回 坂口
- 東京都社会福祉協議会委員会 以後全3回 矢嶋
- 30(日) 第12回通常総会 はせさんず事務所にて
- 6. 14(日) おおた子育てわいわいフェスタ エセナおおたにて
- 25(金) 大田区福祉有償運送運営協議会 全2回 坂口・吉田
- 7. 11(火) ヘルパー研修会「普通救命救急」池上会館にて 参加者32名
- 12(月) 『百日草』No.19発行
- 22(木) 都立美原高校ボランティア体験研修 1日2名全26名 矢嶋
- ～8.26(木) 会員交流会 デイホームにて 参加者27名
- 8. 29(日) 第8回池上祭に参加 佐藤
- 本年も実行委員として参画。模擬店での販売支援を担当。
- 9. 2(木) 東京都認知症対策推進会議 以後全2回 坂口
- 17(木) 第18回移送サービス活動者研修会 はせさんず事務所にて 参加者22名
- 10. 9(土) フォーラム「幸福づくり考 in おおた」大田区民プラザにて 参加者320名
- 公益財団法人さわやか福祉財団主催、大田区・町会自治会・NPO三者による協働フォーラム。
- 13(水)・15(金) 東邦大学医学部学生学外実習受け入れ 全2名
- 15(金) 防災・避難訓練 田園調布消防署 参加者21名
- 21(木)～29(金) 大田区役所職員研修 1日1名 全8名

19団体でスタートしたNPO交流会も28団体が増え、大田区内で活動するNPOの交流会として、着実な歩みを進めています。

各県から派遣された自治体関係者が大田区のNPOを訪れました。



池上祭



幸福づくり考 in おおた

■ご冥福をお祈り申し上げます

2010(平成22)年			2011(平成23)年					
1月13日	早川 栄造さん	72歳	11月8日	久保 輝之さん	68歳	1月3日	打川 たつさん	94歳
4月20日	星 公德さん	33歳	11月26日	小竹 チセさん	87歳	1月27日	仁木ふみ子さん	88歳
4月23日	金子 定人さん	82歳	12月1日	西村 賢さん	69歳	2月6日	八代キミ子さん	97歳
4月30日	日高 多美さん	84歳	12月3日	松本 和雄さん	62歳	3月9日	吉田 恭和さん	77歳
5月20日	高橋 和男さん	83歳	12月11日	菅野 さとさん	98歳	3月22日	島田 康宏さん	77歳
9月2日	島田五百子さん	70歳	12月19日	山口 良枝さん	81歳			

- 22(金) ヘルパー研修会「高齢者の陥りやすい病気と対策」池上会館にて 参加者30名
- 11. 6(土) OTAふれあいフェスタフリーマーケットに出店 大田区平和の森公園にて 参加者のべ58名
- ・7(日) 利用者をはじめ会員からの品物提供で50万4,000円の売り上げ。たすけあい活動の大切な資金となり、お礼を申し上げます。
- 10(水) 元気かいデュオコンサート 大田区民プラザにて 参加者73名
- 12(金) 大田区社会福祉協議会2級ヘルパー研修実習受け入れ 全9名
- ～25(木) 第1回通所介護事業所からの情報発信シンポジウム 田中
- 19(金) 「市民後見人養成講座」以後全4回 修了生10名
- 21(日) 市民のための市民による後見人活動ができるように研修。10名が修了しました。
- 29(月) 大森第4中学校生徒職業体験実習受け入れ 2名
- ～12. 3(金) 2011年版カレンダー制作・販売
- 12. 1(土) 自立支援活動の成果のひとつとして2011年版のカレンダー「創る」を制作、122部を販売。
- ～ 新春座談会 池上会館にて
- 「もっと安心できる仕組みに— これからの介護とたすけあい」と題して、顧問の鈴木悦朗医師と話し合いました。
- 11. 1. 27(木) 新しい公共をつくる市民キャビネット1周年 坂口・矢嶋・佐藤
- 3. 2(水) 浴室暖房乾燥機の設置、電動自転車の購入 東京都共同募金により
- ～7(日) 坂道も何のその！ 電動自転車で馳せ参じています。
- 3. 11(金) 東日本大震災発生
- 11(金)・12(土) 市民福祉団体全国協議会研修イン群馬 佐藤
- 25(金) ヘルパー研修会「トランスファー」池上会館にて 参加者34名
- 腰痛予防になる移動や移乗のノウハウを学びました。
- 30(水) 大田区野田副区長と市民後見人について面談 坂口・矢嶋・佐藤



フリーマーケット



市民後見人養成講座修了証



2011年版カレンダー



新しい電動自転車



ヘルパー研修会

東日本大震災被災地ボランティアとして 仙台市若林区へ

4月20日から5日間、仙台駅近くに開設された市民福祉団体全国協議会とNPOのセンターを通じて若林区の避難所（246人）に、はせさんずから派遣されました。この時期の避難所は窓のある部屋も換気が悪く、風呂場は1つで、洗濯をする場所もなく、トイレの手洗い場が食器や小物の洗濯場として使用されている状況。保健師である私のそこの仕事は、感染（0-157）阻止と予防および被災者の健康状態への支援でした。



毎日各部屋を訪問して環境の清潔や健康指導、感染の早期発見と必要な医療対応をしながら、人々の想いの傾聴に努めました。慟哭の痛みを背負っている人々の表情は、「力を奮い起こして歩こう」という意思が表れていました。「みんな、なくなったべ、後ろ見たってあかんべ、生きるしかないっべ」「がんばれっていわれるけど、できるところからゆっくりやるしかないっべ」。

できることから一人ひとりが道を開いていくことが大切。そのために必要なことを、さまざまな側面から支援の輪を広げ、継続していく役割があることを感じさせられました。まさに、ともに生きることへの実践であると痛感しました。（三浦久美子※写真は交流会で報告をする筆者）

市民後見人養成講座を今年度も実施 大田区での制度実現に期待

増え続ける認知症高齢者や高齢化する知的障害者、精神障害者が、社会生活をしていくために必要なサービスの手続きや財産管理などを、生活が成り立つように本人の代理で行うのが成年後見人です。高齢者や障害者は経済的に豊かでないかたたり、専門的支援が必要だったりすることが多いのです。常に不安感を抱えており、どう生活していくか全般を組み立てて、助けてくれる後見人が必要です。



弁護士や行政書士のような専門職だけで対応するのは、身上監護が十分でない場合があります。また何よりもこの高齢社会では、後見人のなり手の絶対数が足りません。それで一般市民が講習を受けて市民後見人を引き受けましょうということです。昨年初めて養成講座を実施し、10人の修了者がいます。

今年度も引き続き開講し、修了者を増やしていきたいと考えています。秋頃から、月1～2回、日曜日に実施し、全6回くらいの講座を予定しています。大田区や大田区社会福祉協議会と話を進めて社会福祉協議会に監督人になってもらい、大田区において市民後見人が実現することが待たれます。（矢嶋早苗）

編集後記

『百草』の第1号は、1994年10月29日に「大田区の高齢化社会を考える会」のときに発行されました。現在は、「NPO法人たすけあい大田はせさんず」として発行、本号で第20号となりました。百歳の長寿からするとやっと成人。これからも時代の変化とともに生きる問題をみんなで考えながら安心して暮らせる地域づくりに役立つ会報をつくっていききたいと思います。（S.S.）